

## 新潟大学医学部医学科 第2回学外講義 2014

# 腎臓病の克服に向けて

日 時：平成26年 3月8日(土) 13:00-15:30

会 場：新潟市民プラザ ホール

(新潟市中央区西堀通六番町866 NEXT21ビル6階)

参加費無料 事前登録不要

### プログラム

- 13:00-13:05 開会の挨拶 牛木 辰男 医学部長、医歯学総合研究科第三解剖学教授
- 13:05-13:10 はじめに 成田 一衛 医歯学総合研究科 腎・膠原病内科教授
- 13:10-13:40 講演1「**腎臓の働きと病気の研究**」  
山本 格 医歯学総合研究科腎研究施設構造病理学教授
- 13:40-14:10 講演2「**糖尿病性腎症を予防するために**」  
(休憩 15分) 斎藤 亮彦 医歯学総合研究科機能分子医学講座教授
- 14:25-14:55 講演3「**腎臓とミネラル代謝**」  
風間 順一郎 医歯学総合病院血液浄化部准教授
- 14:55-15:25 講演4「**腎臓病の新規治療法の開発・腎の再生に挑む**」  
河内 裕 医歯学総合研究科腎研究施設分子病態学教授
- 15:25-15:30 閉会の辞 味岡 洋一 副医学部長、医歯学総合研究科第一病理学教授

### 「新潟大学医学部医科学外講義」について

新潟大学医学部医学科では、患者さんの病気を診断・治療するとともに、現在はまだ診断や治療の手掛かりが十分に得られていない病気に対して、様々な挑戦的な研究を行っています。これらの多くは、国などの公的機関から国民の皆様の税金に基づく研究費を得て行われております。その成果は論文や学会などで専門的な学術発表を行っていますが、一方で、このことを多くの市民の皆さんや、次の世代を担う若い方々にも理解していただきたいと願っています。

そこで、昨年から1年に1回程度、特定のテーマで新潟大学医学部医学科が推進している研究の最先端を、できるだけわかりやすく紹介する公開講義の機会を設けております。今年は腎臓病について、新潟大学医学部の研究を解説します。年齢や分野にとらわれず、多数の方々のご参加・ご来聴をお待ちしております。

## 腎臓病について

腎臓の病気が進んで、腎不全という状態になると、透析療法や腎移植が必要になります。このような慢性腎不全の患者さんは、わが国で31万人を超えていて、今も増え続けています。腎不全の原因はいろいろな病気が含まれますが、それらをまとめて慢性腎臓病と呼んでいます。現在、成人の8人に1人が慢性腎臓病であり、しかも慢性腎臓病の人は心臓や脳の血管の病気、骨折、貧血などの合併症を起こし易いことも知られています。したがって、腎臓の病気を早く発見して、治療する方法の開発や、腎不全の合併症の対策は、重要な課題です。この公開講義では4名の教授に新潟大学医学部における腎臓病研究の一端を分かりやすく解説します。

## 講義要旨

### 講演1 腎臓の働きと病気の研究

山本 格

人間の腎臓は複雑な構造をしています。しかし、その複雑さは腎臓の働きを行うために必然的に生まれたとも言える美しい構造なのです。その複雑で美しい構造と働きを脊椎動物の進化と関連させて紹介します。

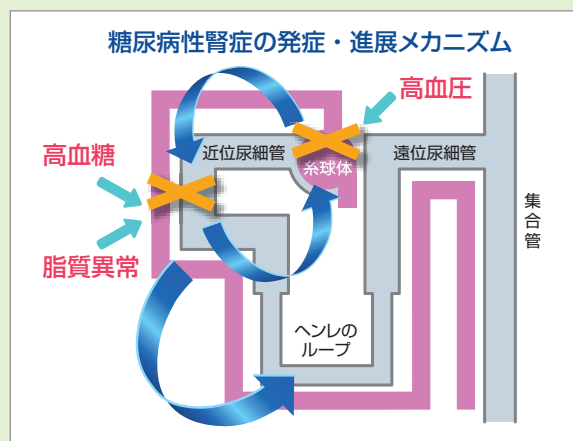
また、腎臓の働きが傷害される腎臓病の多くはその原因や機序が良く分かっていません。それらを明らかにするために、腎臓病の組織の分子、特に、機能を担っているタンパク質全部を対象に解析するプロテオミクスによる研究の一端を紹介します。



### 講演2 糖尿病性腎症を予防するために

斎藤 亮彦

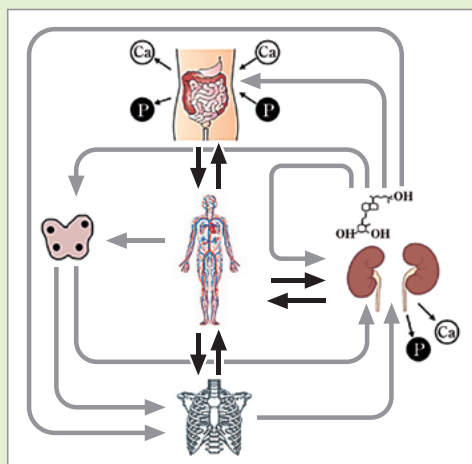
糖尿病の合併症として腎臓の障害が起こります。これを「糖尿病性腎症」といいます。腎臓の機能が低下すると、いずれ透析治療を受けなければならなくなる可能性があります。現在、この糖尿病性腎症が、透析治療を受ける原因の第1位の病気です。また糖尿病性腎症になると、心臓や脳の病気にかかる危険も増大します。私たちは、この糖尿病性腎症を予防するための基礎的・臨床的な研究を行っています。



### 講演3 腎とミネラル代謝

風間 順一郎

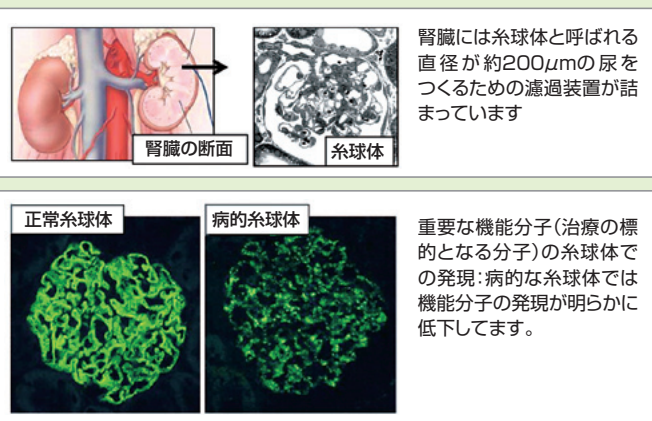
脊椎動物では、身体の中に内なる海=ホメオスターシスを守るため、しばしば複数の臓器が共同して一つの機能にあたります。ミネラル代謝はその典型例です。この講義では生体のミネラル代謝臓器ネットワークのあらましと、その重要な構成員である腎臓の機能がなくなった透析患者でどのような異常が起こってくるか、それに対して我々はどう立ち向かうべきかについて概説します。



### 講演4 腎臓病の新規治療法の開発・腎の再生に挑む

河内 裕

腎臓には糸球体とよばれる尿を濾過する構造物が1つの腎臓に約100万個存在しています。多くの腎臓病では、この糸球体という構造物が少しずつ壊れていきます。糸球体が壊れるのを防ぐにはどうすればいいのでしょうか？ 壊れた糸球体を再生する方法はあるのでしょうか？ これらの問題を解決するための取り組みの最新のトピックを紹介します。



講義の詳しい内容は下記ホームページでご覧いただけます。

<http://www.med.niigata-u.ac.jp/>



連絡先

新潟大学医学部庶務係 TEL025-227-2003  
Eメール: shomu@med.niigata-u.ac.jp